

県外調査報告

平成28年7月20日~7月22日

日本各地へ赴き、行政の様々な成功事例を直接見て、感じて、学び山梨県政へ転換して参ります

秋田県庁(子育て支援課・義務教育課)

秋田県・岩手県 2016年7月20日・21日・22日

7月20日~7月22日までの3日間、政務調査として秋田、岩手県の2県を訪問しました。初日は、秋田県庁を訪問し、地域ぐるみの子育て支援体制の一端として導入されている「子育てタクシー」への取り組みについて、健康福祉部子育て支援課の土田元隆課長と元野史朗主幹より話を伺いました。

29日県庁で「子育てタクシー」は運行していますが、秋田県は県主導で導入業を実施しました。この事業の取り組みについては、本県の子育て支援の充実に向けて今後も研究を続けていきます。

続いて、義務教育課の中井淳司主幹と小西力哉指導主幹からは、「学力向上の取り組み」について話を伺いました。秋田県では、学力の一層の向上のため、各小・中学校が各校の実態に応じて、授業改善や教師の指導力向上、校内の共同研究体制の確立、家庭・地域との連携の充実に向けた取り組みを進めています。この取り組みを参考に今後とも本県の未来を担う子供たちの学力向上に向けた取組に反映させていきたいと思っております。

2日目の午前中は、秋田県仙北市役所を訪問し、農村滞在型観光センターの取り組みについて、観光工芸部農山村体験デザイン室の堀田政幸課長とNPPO法人



●秋田県庁にて(平成28年7月20日)

秋田県仙北市観光課農山村体験デザイン室



●秋田県仙北市調査報告にて(平成28年7月21日)



岩手県・オガール茶波株式会社



●岩手県・オガール茶波株式会社(平成28年7月21日)



岩手県立黒沢尻工業高等学校



●岩手県立黒沢尻工業高等学校(黒沢尻工業高等学校)が実現した成果を視察(平成28年7月22日)

田口久義代表理事より、話を伺いました。昭和50年代の都市型から地方型への修学旅行先の変化を受け、農業体験を行う修学旅行への取り組みがはじまり、現在は県全体で約20校、3,000人以上の生徒が訪れているそうです。山梨県でも豊かな自然を生かした修学旅行活動に向けた取り組みとして検討していきます。

午後は岩手県へ移動し、オガール茶波株式会社を訪問し、「オガールプロジェクト」という都市再開発事業について、八重樫雄光顧問より話を伺いました。岩手県黒沢尻町のJR黒沢尻中央駅前の町有地を中心とした都市整備事業で、公民連携手法による公共施設整備や経済開発を通じた町づくりを進めています。この公民一体となった取り組みを本県におけるユニークな取組に生かしていきたいと思っております。

3日目は、岩手県立黒沢尻工業高等学校を訪問し、「黒沢尻工業高等学校の専攻科の取り組み」について、黒沢尻校長と黒沢尻副校長より話を伺いました。調査、研究を進めてきた、黒沢尻工業高等学校に設置された全日制の専攻科の在り方について調査、研究の成果を参考にしながら取組を進めていきます。



自由民主党山親会

平成28年8月号

私たち県議会派、自由民主党山親会は、平成28年を以て、「2016良い、そしてより豊かな山梨づくり」を目標に11名の有志一同協議会活動に取り組んでおります。今、国内外の社会情勢はイギリスのEU離脱、難発するテロ事件等々、不安定要素が際立ってきています。近年のグローバル化の中において、私たちが暮らし山梨県に与える影響は計り知れないのが明らかな情勢であります。本県の課題である高齢化による人口減少、農業をはじめとする産業の停滞、教育、医療、福祉の改善についても地球規模の情勢変化を踏まえて

対応が欠かせないものとなっております。自由民主党山親会は、発足2年目に入った後継県政の「ダイナミック山梨」の実現についても基本的には賛同しながらも、眼前については県民の暮らしの向上を第一の目標として対応していきます。そして新たに加わった同志を含めた11名は、それぞれの出身地域の課題に取り組んで参ります。同様の施策に対しては、それぞれの内容や地域の実情を吟味しながら発言、苦言の両面から対応して参ります。今後も県民、地域の皆様の貴重なご意見やご意向から各課題に取り組んで参ります。



お問い合わせは【発行元】山梨県議会 自由民主党 山親会 甲府市丸の内一丁目6-1 電話 055-223-1833

自由民主党山親会 9+2=∞

広い視野をもって課題と対決 鈴木 幹夫

千載一遇(せんざい いちごう) 大柴 邦彦

若者のふるさと定住対策を 前島 茂松

日常会話から貴重なヒントを吸収 皆川 巖

熊本地震を教訓に山梨の対策強化を 渡辺 英機

スポーツと文化の力で地域活性化 山下 政樹

民意を喚起できる政治家に 永井 学

決意を新たに地域の課題に挑戦 杉山 肇

郷土の活性化に具体的な活動を 猪股 尚彦

活性化へ向け 再合併へ一層努力を 奥山 弘昌

富士山世界文化遺産、今後も積極活用 渡辺 淳也